

市民公開講座 2012年1月22日(日) 於：千葉市民会館

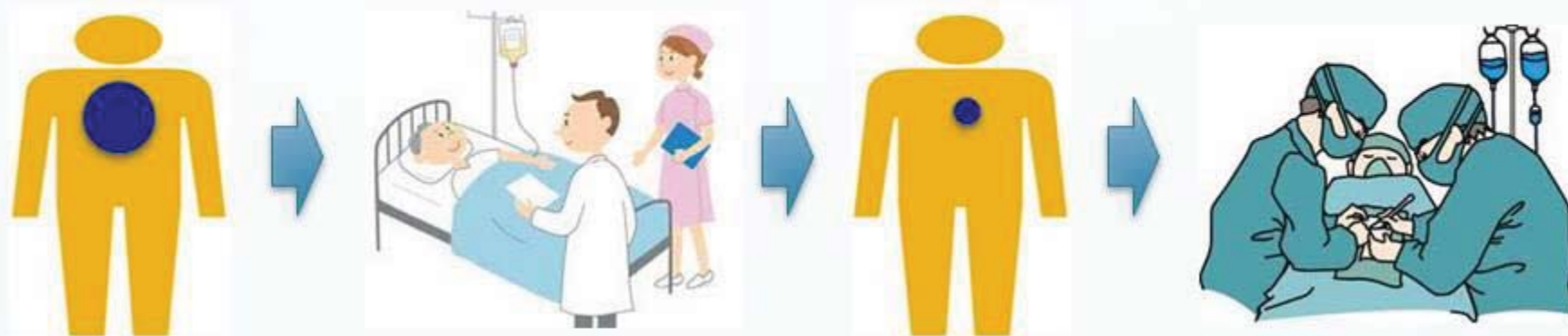
知っておきたいがん治療と支援体制
化学療法

千葉大学医学部附属病院薬剤部
山崎伸吾

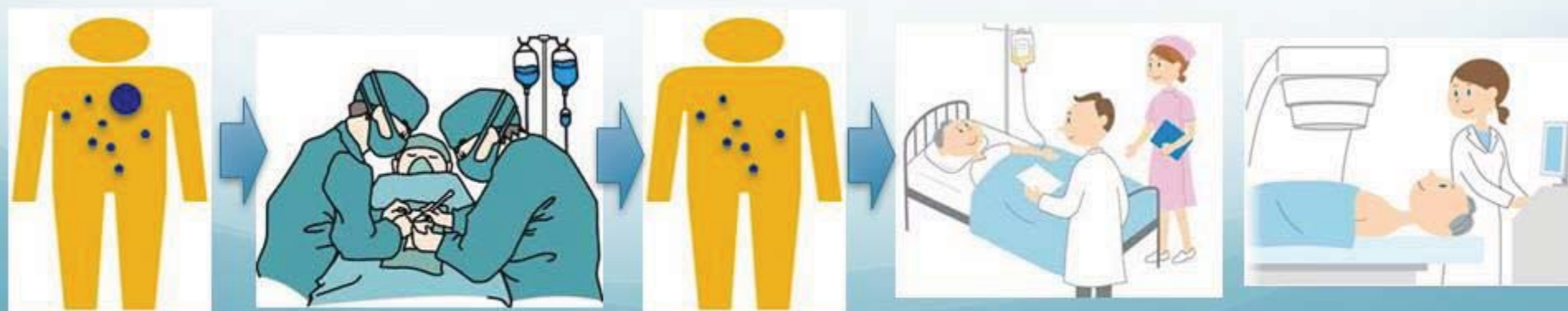
化学療法の役割

~状況に合わせて手術と放射線を組み合わせて~

- 手術で切り取る前に小さくしておく → 切除部位の縮小



- 手術で切り取った後に、見えないがんが残っている可能性をゼロに近づける
- 転移や再発の予防



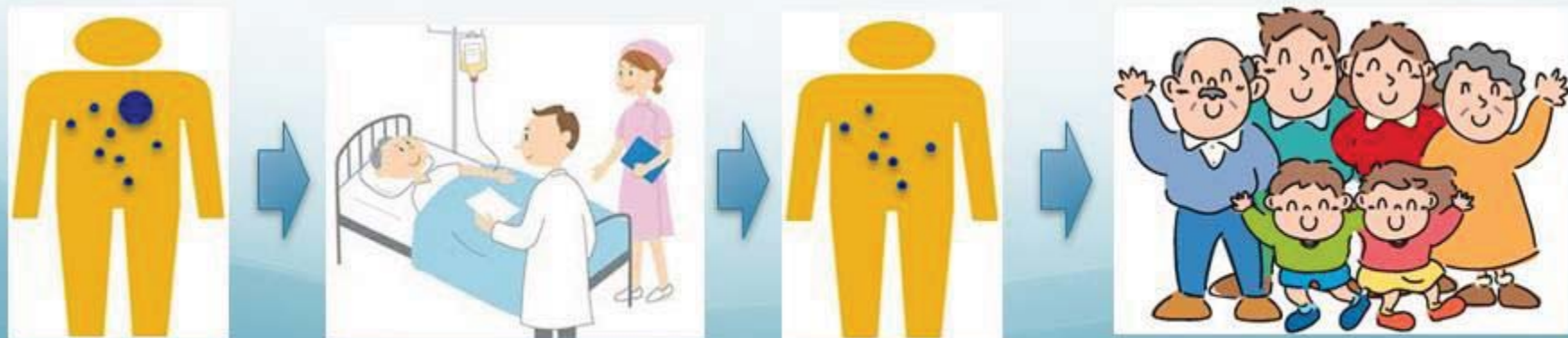
化学療法の役割

～がんによっては化学療法だけで十分な効果～

- 化学療法が効きやすい → 完治が期待できるものもある！

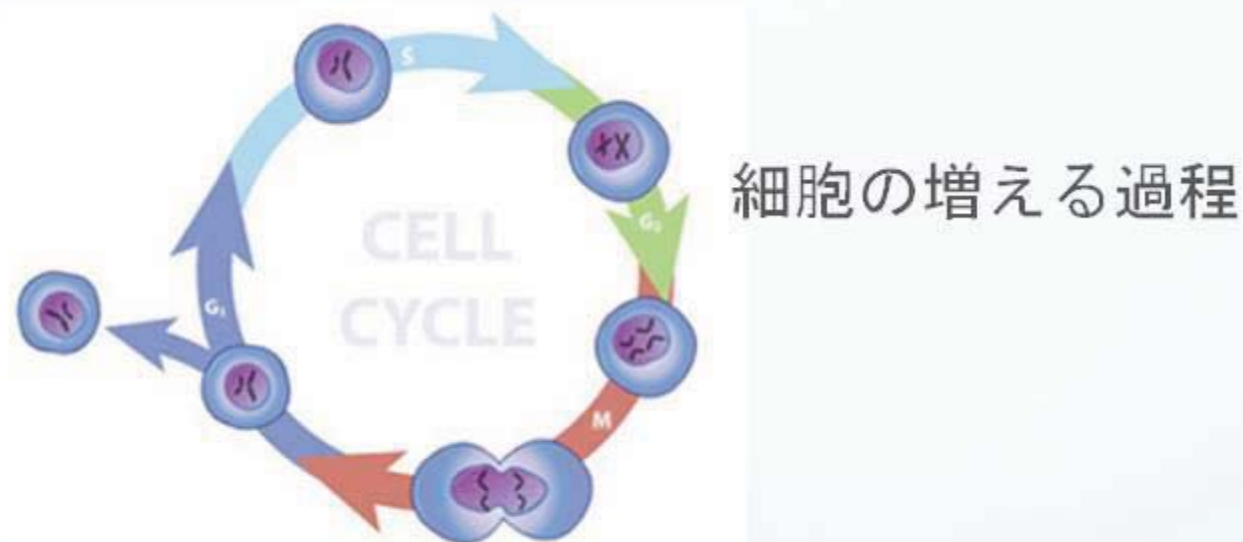


- 化学療法が効きにくい → 延命、症状緩和、生活の質(QOL)の向上



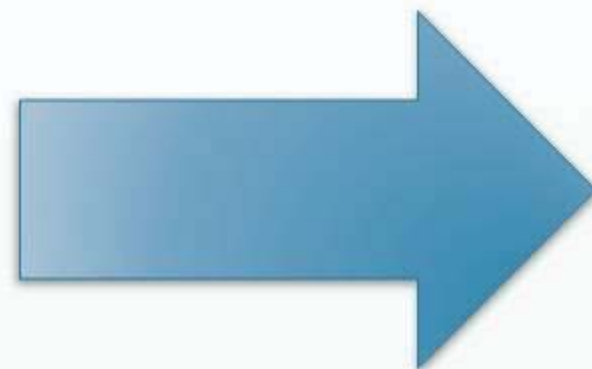
抗がん薬の副作用はなぜおこりやすい？

- 細胞が増えていく過程は、正常細胞もがん細胞も同じ



	 正常細胞	 がん細胞
細胞の増えるスピード	遅い	早い

抗がん薬の副作用はなぜおこりやすい？



無差別攻撃



がん細胞



正常細胞



毛根細胞



腸管粘膜細胞



血液細胞

がん化学療法による副作用のイメージ



口内炎



便秘・下痢



かぜなどの感染



悪心・嘔吐



倦怠感



脱毛

がん細胞にだけ効く？ ～抗体製剤・分子標的治療薬～

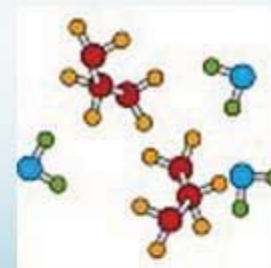
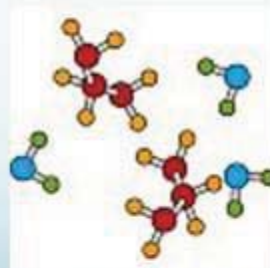
がん細胞



がん細胞だけ持っている？鍵穴



ピンポイント
攻撃



がん細胞の成長に必要な物質

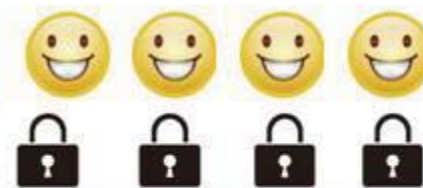
正常細胞にも鍵穴が・・・ ～抗体製剤・分子標的治療薬～



がん細胞



正常細胞



正常細胞にも
思わぬ攻撃



皮疹

高血圧

アレルギー

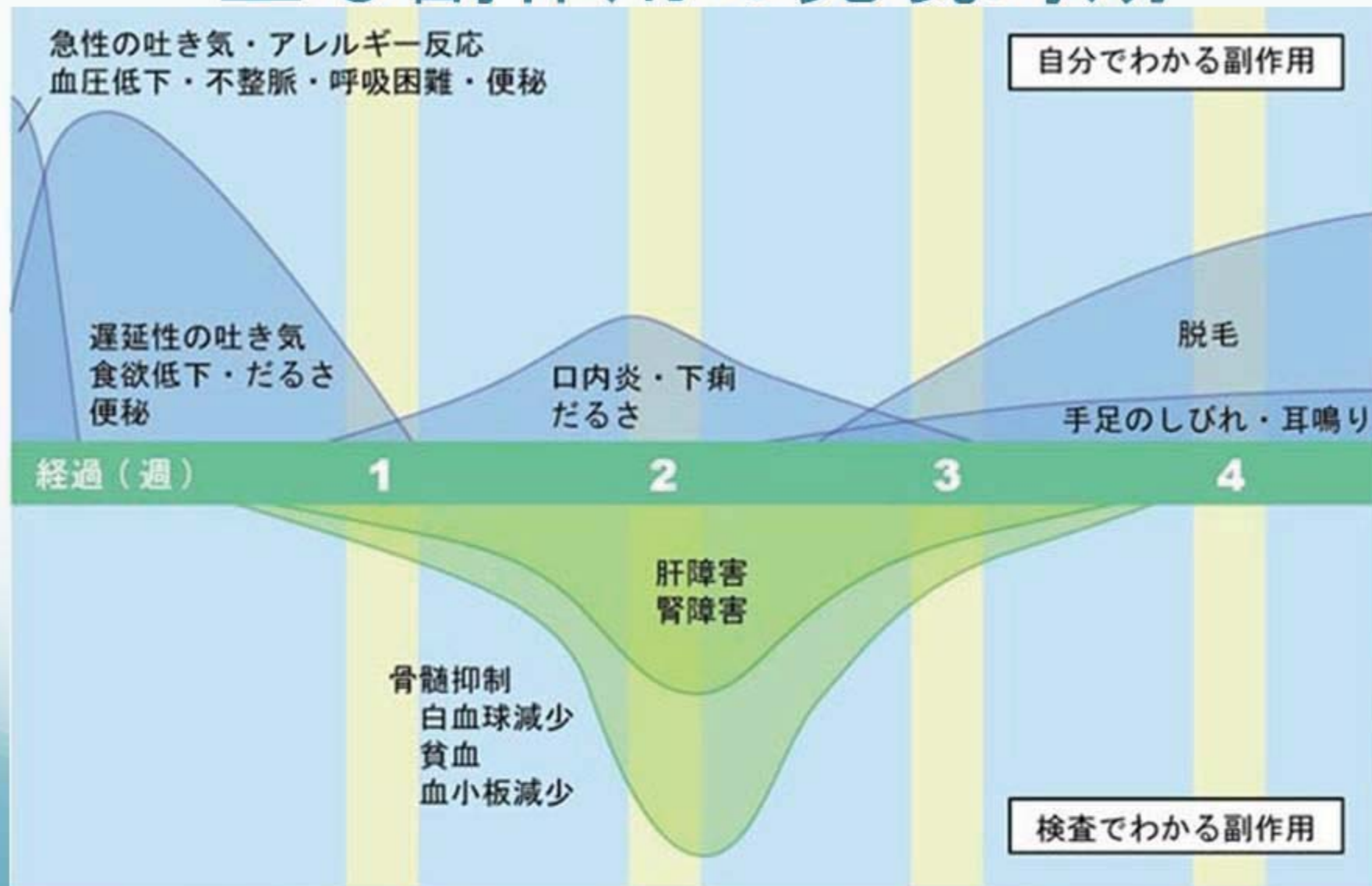
主な支持療法・副作用対策

- 口内炎：粘膜保護薬、含嗽薬、鎮痛薬、ステロイド、食事療法、セルフケア
- 悪心・嘔吐：ステロイド、制吐薬、食事療法
- 下痢：止瀉薬、腸管運動抑制薬、乳酸菌製剤、食事療法
- 便秘：緩下薬、浣腸、漢方薬、乳酸菌製剤、食事療法、セルフケア
- 感染：抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬、G-CSF製剤、食事療法、セルフケア
- しびれ（末梢神経障害）：VB12製剤、鎮痛薬、鎮痛補助薬、漢方薬、セルフケア
- 皮膚症状：ステロイド、保湿薬、抗菌薬、食事療法、セルフケア
- 疼痛：鎮痛薬、鎮痛補助薬、漢方薬
- 高血圧：血圧降下薬、運動、食事療法

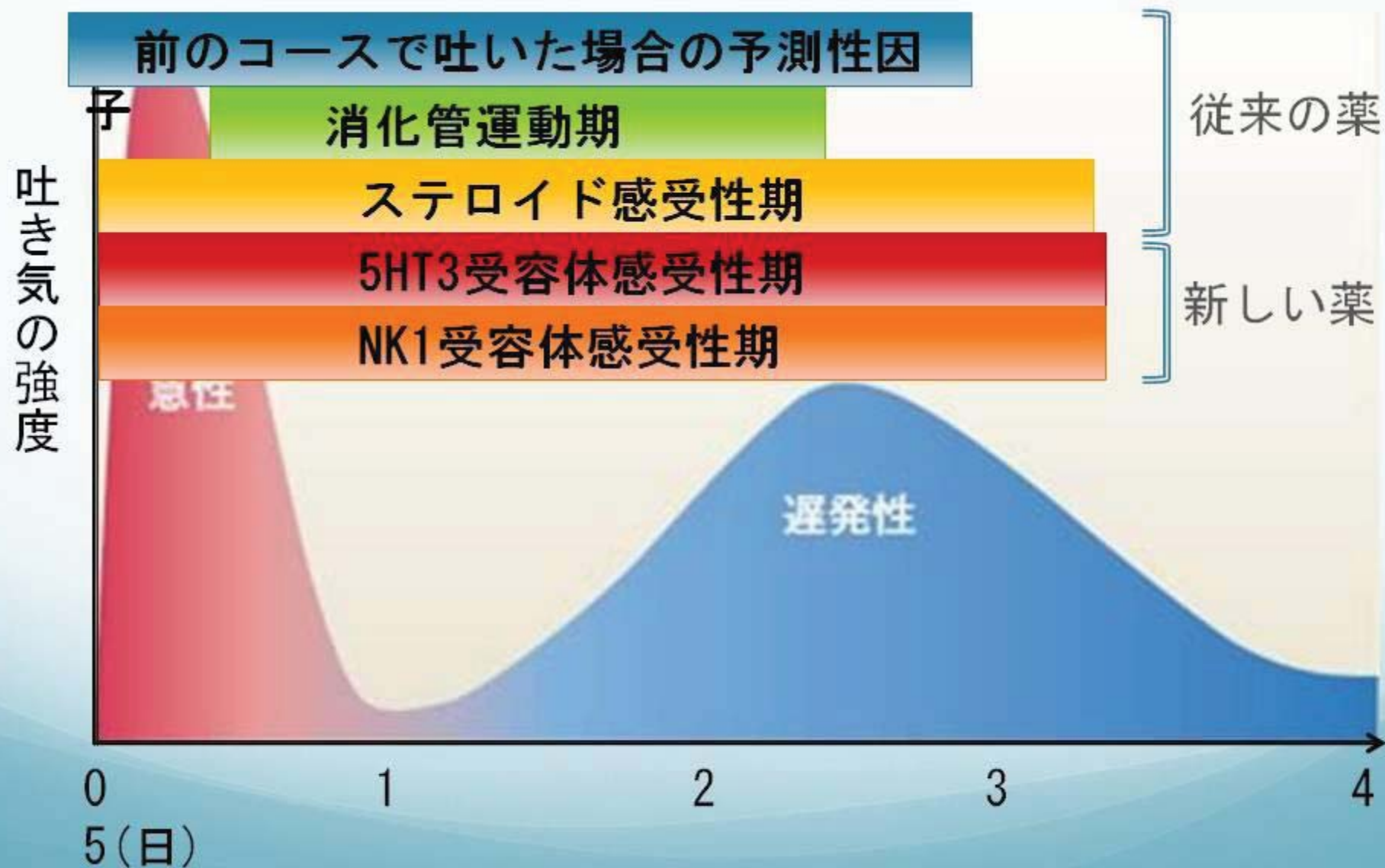
★上記の症状の原因や、患者さんの病状によって選択される治療法は異なります★

副作用の予防・治療はセルフケア（患者さん自身で注意して生活すること）が重要で、薬物療法だけで十分な効果が得られない場合があります

がん化学療法による 主な副作用の発現時期



現在の制吐（吐き気止め）療法



がん化学療法における患者側からみた 苦痛の順位の変遷

1983年(Eur J.Cancer Clin.Oncol.19:303,1983)

2002年(cancer 2002;95:155-63)

- 1 嘔吐
- 2 悪心
- 3 脱毛
- 4 治療に対する不安
- 5 治療期間の長さ
- 6 注射による不快感
- 7 息切れ
- 8 全身倦怠感
- 9 睡眠不足
- 10 家族への影響

- 1 家族への影響
- 2 脱毛
- 3 全身倦怠感
- 4 仕事、家族の責務への影響
- 5 社会活動への影響
- 6 性生活への影響
- 7 立ちくらみ
- 8 下痢
- 9 体重増加
- 10 息切れ

同じ疾患で同じ治療を行っているのに…



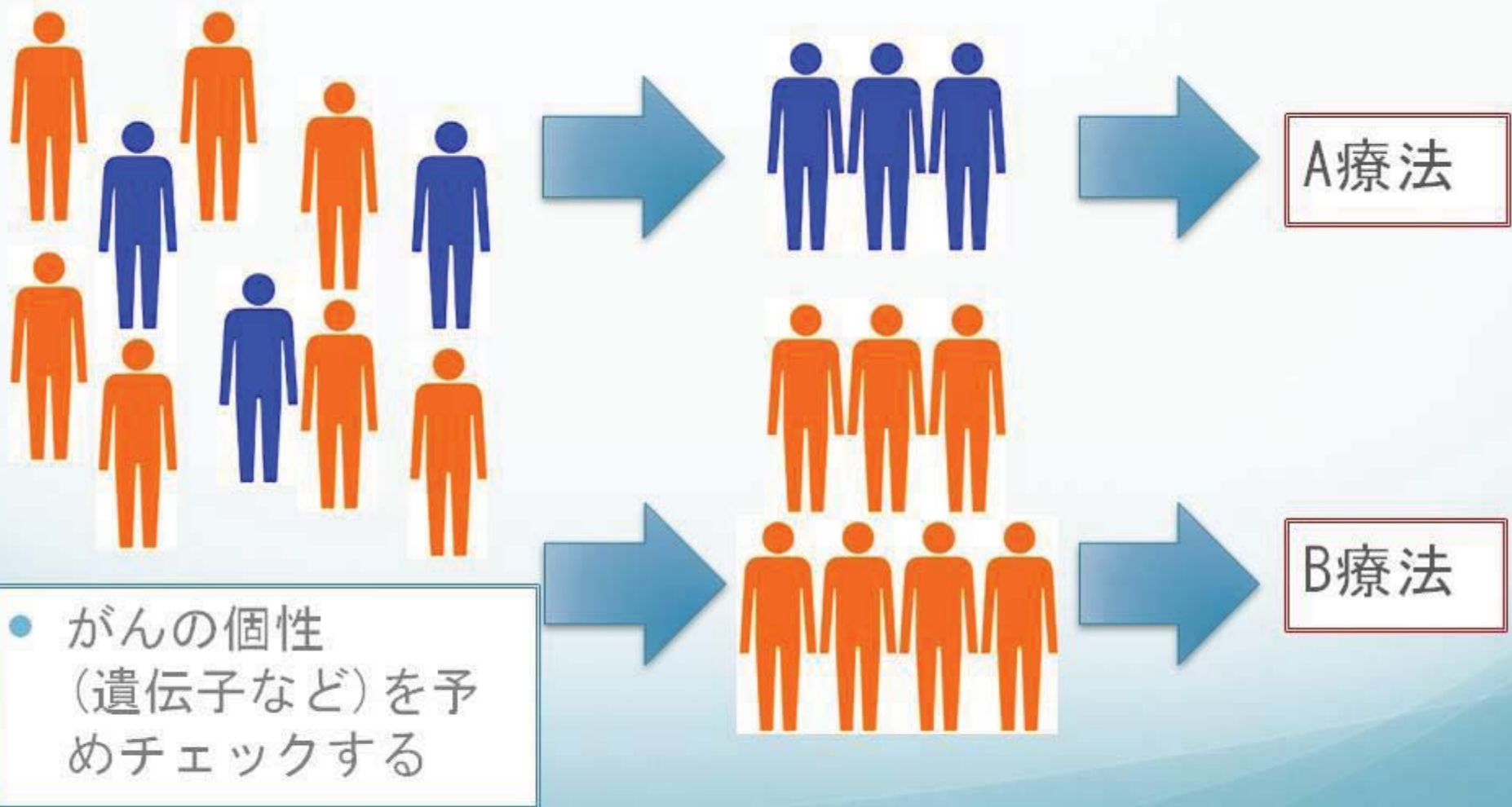
- 同じ疾患の患者でも個々のがんの個性は異なる

抗がん薬が効く患者の皆様を 特定できれば・・・

同じ治療を行っても

- 治療成績は圧倒的に向上する
- 重篤な副作用を回避できる
- 無駄な治療費を払わなくてすむ

個人差を埋める努力 ～個別化投薬～



薬を知って、我々とともに治療する

- がん化学療法はがんの種類や大きさ、進行度合いによって手術や放射線療法と組み合わせ、状況に応じて、完治を目指すもの、延命、QOLの改善などその目的は異なる
- 抗体製剤や分子標的薬の登場により、従来の副作用に加えて新たな副作用にも注意が必要となってきた
- がん化学療法による副作用対策は進歩し、化学療法による患者の皆様からみた苦痛度は、治療中の問題から退院後の影響へと変化してきた
- 抗がん薬の投与前からがんの個性を調べることで、治療効果の向上や副作用の回避、無駄な医療費をかけずに治療する「個別化投薬」ができる様になりつつある
- がん治療を計画通り進めていくため、抗がん薬の特徴、副作用の種類と時期、その対策を知ることで、副作用が出た場合の迅速な対応を行うことが重要である